

私を育ててくれた言葉

Valuable Teaching

神山三枝 Mie KAMIYAMA

人の成長にとって心に残る大切な言葉を、必ず人は誰かからもらっていると思います。

今年、帝人ファイバー(株)は、高分子学会賞を頂きました。個人的には、勤続20年を迎えることができ、感謝の気持ちに尽きます。そのような時に、この原稿のお話を頂き、これまで私を育ててくれた方々へのお礼と若手の方々に何かのご参考になればと思い、この過分な機会をお引き受けしました。

1. 「原理原則」

入社当初、私は、自分のテーマの意味が理解できず、なかなか思うような成果が出ない現状に対して、早く成果を出したいと焦り、そのギャップをどうやって埋めていくべきか？ わかりませんでした。

当時の研究室長は、突然、「融点とはなんや！」、「配向とは？」などと根本的な質問を投げかける厳しくも温かい方でした。質問に答えられないと、そこから2～3時間、室長の教育が始まります。「熱力学では、融点は、 $T_m = \Delta H / \Delta S$ で、融解エンタルピーと融解エントロピーの比であり、分母のエントロピーとは、状態の変化に関するパラメーターのため、たとえば、液晶高分子は、融解にともなって分子集合体の形状変化がほとんどないので、 ΔS がきわめて小さい。したがって、 T_m は無限に大きくなるということで、一般的な測定範囲では検出できない」とのこと。

指導を通して、見えている現象のその奥にある「原理原則」に目を向けて考えれば、本質的な問題解決や判断ができることを教えて頂きました。課題を深く掘り下げて自分なりの解釈をきちんともつこと、いろいろなルートで仮説をめぐらせて複数の選択肢をもてる研究者・技術者になりたいと目標ができました。

2. 「研究開発のDNA」

管理職になる時に、「これまで培ってきた研究開発の歴史・DNAを受け継いでほしい」と言われました。それまで、あまり意識したことのない“組織”の大切さとそれを受け継ぎ、繋いでいく役割を自分も担っているのだという意識が芽生えました。そのことにより、日常業務にもいろいろな意味を感じ、能動的になれま

した。また、そのような財産、仲間の中にいる温かさ・心強さを、とても誇らしく感じました。

3. 「今から始まると思って、またがんばればいい」

共同開発で、顧客のニーズに応える技術開発に失敗し、案件を中止することになったとき。そのことを伝えるのは、大変辛く気持ちが重いものでした。黙って聞いていた上司の最初の言葉は、思いもよらないもので、ほんとうにありがたかったです。次は期待に応えたいと奮起しました。

また、数年前、市場開拓の仕事に着きました。研究開発の成果を事業化して利益を得るには、社内・社外のみさまざまな状況とwin-winでつながらなければ完遂しない難しい業務です。振り返ると力不足・反省の点多々ありますが、何をすべきかを俯瞰的に考えることを学んだ貴重な経験です。

4. 「たくさんの責任は、人生を豊かにする」

プライベートと仕事の両立は、さまざまな葛藤に苦しむことが多いでしょう。その時は、時間や場所といった物理的制約はひとまずおいて、優先順位や貢献の仕方に工夫すること、変化を前向きに受け入れることは、自分の新たな面に出会う“きっかけ”になると思います。

5. 最後に

研究者・技術者(社会人)として一人前になるには、時間と経験を要するでしょう。いっぺんに沢山のことを深く理解するのは難しいし、何かを知ったことによって別の未開のページが出てくるので、尽きることがありません。また、新しいものに挑戦しようとする、すぐわからないことにぶつかり、成果の上がないことに苦しみ、自分は価値を生み出しているのか？と悩みます。しかし、これをなんとしても乗り越えるんだと信じて、やり方を変える、見方を変える。納得がいくまで、決して諦めずに、挑戦し続ければ、何かが見えてくると思います。…そんなとき、きっと、自分を育て励ましてくれた大切な言葉の存在に気づき、あらためて、元気をもらえんと思います。皆さん、ともに頑張りましょう。



神山三枝 Mie KAMIYAMA

帝人ファイバー(株)
CEO補佐(生産・研究開発担当) 付
ナノファイバー技術担当
工学博士、複合溶融紡糸
E-mail: mi.kamiyama@teijin.co.jp